

# 専門学校麻生リハビリテーション大学校

## 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本大学校の「教育理念」「行動指針」を実現するために、各学科の特色を生かしたカリキュラムの提供を行う。具体的には「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の領域を学年ごとに基礎的な科目から応用的科目へ発展するよう編成して講義・演習・実習を適切に組み合わせ合わせた授業を実施する。

### （1）教育内容

#### （1-1）豊かな人間性と、社会人としての倫理観や一般的知識、マナーを修得するために

豊かな人間性とマナーを修得するために麻生塾独自の「GCB」教育、高い倫理観と探究心・向上心を養うための社会人基礎力向上のための科目を配置する。また、高校で得た知識に加え、専門科目を理解するために必要な基礎科目に加えリメディアル教育を配置する。

#### （1-2）コミュニケーション能力を修得するために

社会人として良好な人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力（記述・表現力・議論・語学力）を養う。

#### （1-3）医学的知識とリハビリテーションの専門知識・技術を修得するために

医療専門職に必要な知識として、専門基礎科目、基礎医学科目・臨床医学科目を配置し、身体の構造や機能を理解するとともに医学一般を理解する。更に、早期よりリハビリテーション概論やそれぞれの職種の概論科目を配置し、リハビリテーションや専門職の歴史や理念・仕事を理解し、職業理解に努める。専門的な知識・技術の修得としては評価学や治療学を通しキャリアイメージを持てるようにする。

#### （1-4）マネジメント能力を修得するために

各学年で必要な知識を自ら計画立て、修得していくことができるようセミナーや行事を教育活動に役立てる。また、社会に必要なマネジメント力を修得するための科目を配置する。

#### （1-5）国際的視野を持って地域で活動する力を修得するために

地域社会におけるリハビリテーション専門職の役割や、多職種連携を学ぶ科目として地域系の科目を配置する。また、グローバル社会への対応として、身近な視点からグローバルな視点で、リハビリテーションの使命を考える事が出来るように麻生塾独自の「GCB」教育を配置する。キャリア教育としては、病院・介護施設などの施設見学や基礎演習・評価実習・臨床実習を1年次から最終学年まで段階付けて計画的に配置する。加えて、地域包括ケアシステムに貢献できる人材を育成する為「地域包括ケア実習」を実施する。

## (2) 教育方法

### (2-1) 問題解決能力や他者と協働する力を高めるために

講義でインプットした知識を他者へアウトプットとする機会を多く設ける。他者と議論をする機会が多い少人数制によるグループワーク形式の授業を積極的に導入する。

また、クラス担任制により学生個別の特性に応じた指導を行う。

### (2-2) 自己学習能力を高めるために

能動的学修を促す。事前事後の学修課題を管理するため、授業内容に沿って事前事後課題を明確に提示する。また、インターネットを活用した e ラーニングシステムを積極的に活用する。

### (2-3) 確かな技術力の向上のために

高度な専門技術の修得のために、学外の病院や施設における臨床実習を導入する。臨床実習前後では学内で技術力の確認のための評価を行う。

### (2-4) 職業を通して社会に貢献する自覚を高めるために

卒業生など臨床現場の療法士や多職種の講義・ディスカッションの機会を設ける。地域とグローバル社会に関しては、ボランティアへの参加、海外留学などの機会を積極的に導入する。

## (3) 成果の測定

### (3-1) 各学期終了時に定期試験で評価する。

### (3-2) 客観的に臨床能力を測定するために少人数による OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を実習前後に実施する。

### (3-3) 実習に関しては、診療参加型臨床実習を導入し、実習指導者に情意面を評価してもらい、知識・技術面は、学力試験、実習前後の OSCE の成長度によって評価し、その他出席なども含め総合評価を行う。